

神戸市金棒池古墳の測量・発掘調査〈速報〉

—明石川流域の後期前方後円墳—

神戸女子大学文学部 齋藤 瑞穂・中島 小春・藤田 麻希

1. 金棒池古墳の位置

所在地：神戸市西区神出町金棒池 1-1

調査主体：神戸女子大学考古学研究室，連携協力：神戸市文化スポーツ局文化財課

測量調査：2024 年 2 月 10 日～12 日，発掘調査：2025 年 2 月 2 日～11 日（第 1 次）

2. 金棒池古墳の地理的環境

印南野（いなみの）台地北東端に所在，ランドマークの雄岡山・雌岡山に挟まれる。

大阪層群地帯。表層は赤坂粘土層（岩岡海進で形成）。雄岡・雌岡両山は丹波層群で頁岩・砂岩互層。

3. 金棒池古墳の歴史的環境

明石川流域・明石川周辺の前方形後円墳は瀬戸内海沿岸に集中，金棒池古墳のみ内陸部。

旧石器・縄文時代遺跡はあるが，弥生時代以降の集落遺跡は空白。食糧生産との関係か。

後期の金棒池古墳，東石ヶ谷 2 号墳，大歳山 2 号墳は横穴式石室墳とされる →金棒池古墳は検討の余地あり

4. 金棒池古墳研究のあゆみと問題の所在

福原潜次郎による状況報告が初出か：『西摂大観』（1911），『歴史地理』38-3（1922）

宮内省書陵部が鏡縁破片，金環，玉類を所蔵（cf 後藤守一『漢式鏡』（1926））

中村憲司「金棒池 1 号墳測量調査報告」（『神戸古代史』創刊号，1974）

→現行の測量図の発表。ただし，前方部の端が明瞭でない。様々な復原案が生まれている。

5. 測量調査の成果

後円部北側崩壊部分の形状は，中村報告から変化がない。池の水の波打際が古墳にダメージをあたえている
埴輪なし。葺石なし。

墳丘に検土杖を刺しても，石にあたる感触は得られない。後円部墳頂が破壊を受けている →木棺直葬墳か。

前方部の墳端を把握する手掛かりは得られなかった。

6. 前方部 F トレンチの成果

前方部の墳端を確定：現存の墳丘より 6.5m 大きい，地山を成形して墳丘を構築している。

墳丘の構築過程が判明：旧地表面標高 136.6m，その上に質の異なる 2 種類の土を盛る。

周溝幅は 4.7m：底面標高は 135.95m で，旧地表面から 60cm 掘りこんでいる。周溝の向きも判明。

盛土中に人頭大の礫が含まれる，周溝覆土内にも落ち込む

7. 後円部 N トレンチの成果

後円部の墳端を検出：旧地表面 136.8m，その上に質の異なる 2 種類の土を盛る（前方部と同じ堆積）

粘土層と砂質土層：砂質土を近傍で採取できるのは雌岡山の丹波層群か

周溝幅は 6.9m：前方部側よりやや幅がある。この差は，前方部先端が大幅に削られていることも影響か。

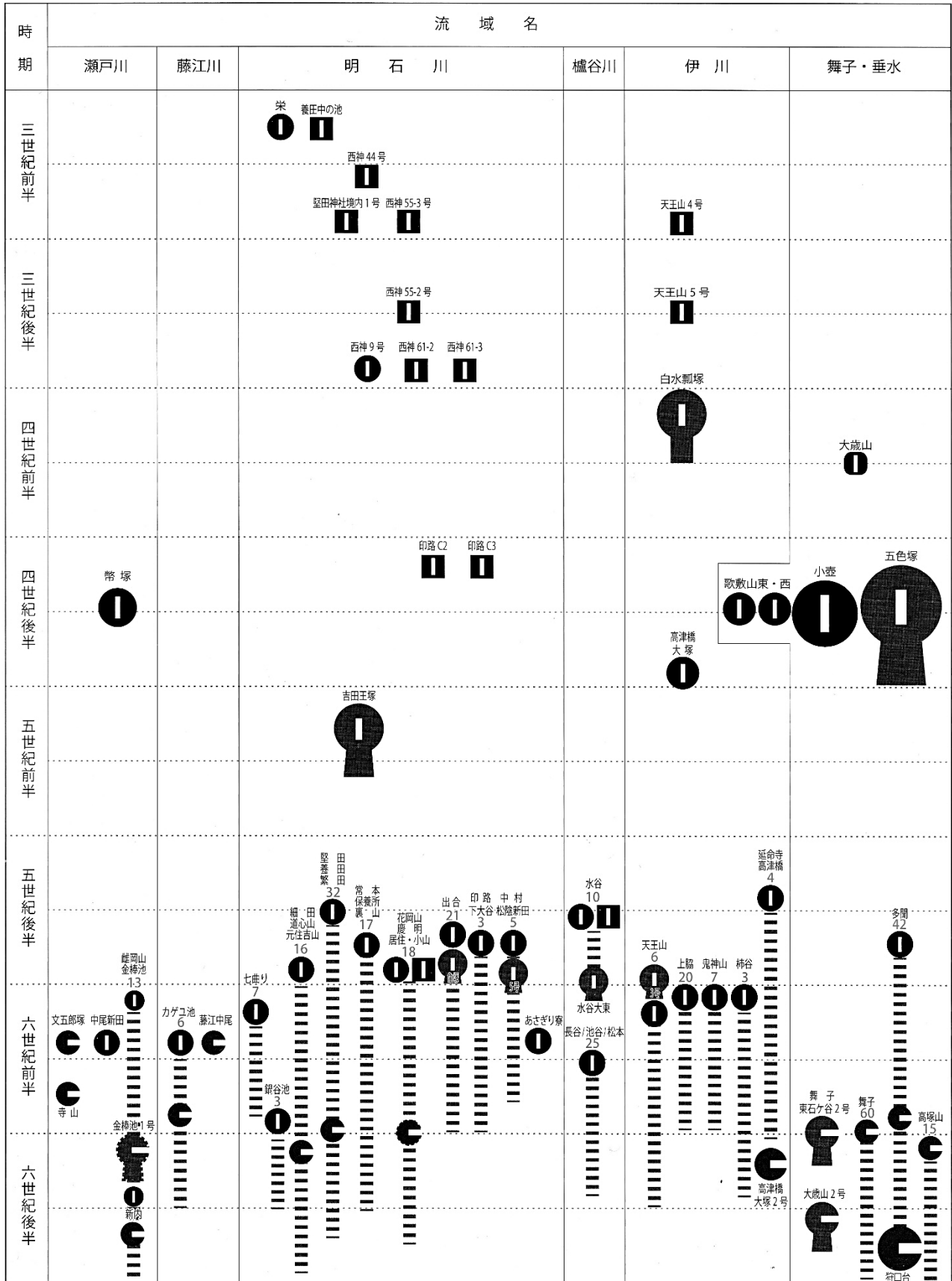
周溝下層から古墳時代須恵器が出土。

8. まとめと今後の課題

墳長 30m。前方部角の検出が今後の課題。

明石の古墳編年表

2012年9月末現在 作成：丸山潔 協力：安田滋



: 前方後円墳・横穴式石室以外
 : 前方後円墳・横穴式石室
 : 円墳・木棺直葬
 : 方墳・木棺直葬
 : 円墳・横穴式石室

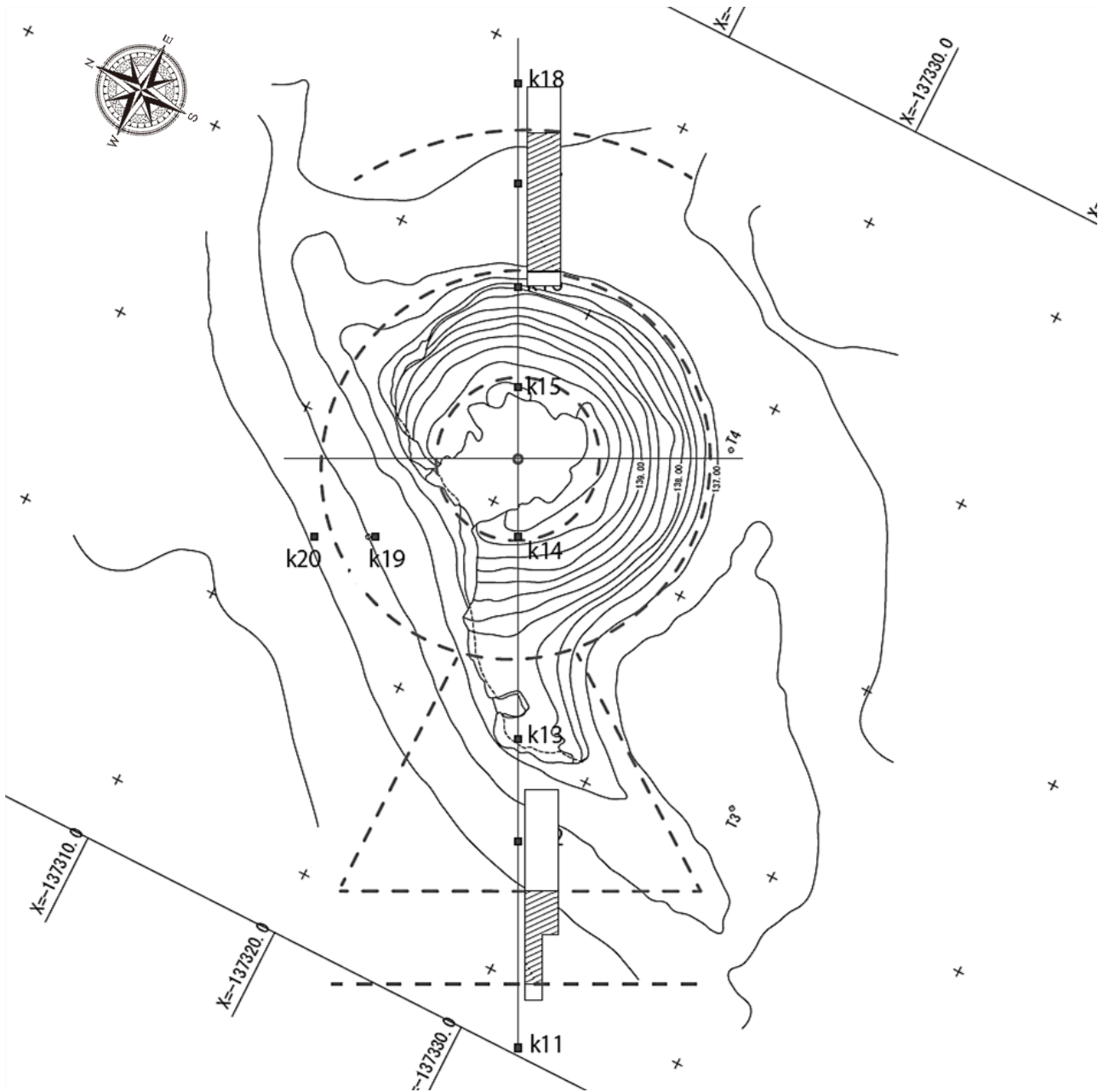
* 古墳群名の下の数字は群中の基数ですが、分布調査のものもあり確定した数ではありません

明石の古墳分布図

2012年9月末現在 作成：丸山潔



- 1 幣塚 2 雌岡山/金棒池 3 文五郎塚 4 中尾新田 5 寺山 6 金棒池 7 新内 8 カゲユ池 9 藤江中尾
- 10 栄 11 養田中の池 12 西神44号 13 堅田神社境内1号 14 西神55-3号 15 西神55-2号 16 西神9号
- 17 西神51-2号 18 西神61-3号 19 印路C2号 20 印路C3号 21 吉田王塚 22 七曲り 23 鍋谷池
- 24 細田/道心山/元住吉山 25 堅田/繁田/養田 26 常本/保養所裏山 27 花岡山/慶明/居住・小山 28 出合/亀塚
- 29 印路/下大谷 30 中村/松陰新田 31 あさぎり寮 32 水谷 33 長谷/池谷/松本 34 天王山4号
- 35 天王山5号 36 白水瓢塚 37 高津橋大塚 38 天王山 39 上脇 40 鬼神山 41 柿谷 42 延命寺/高津橋
- 43 大歳山 44 歌敷山東 45 歌敷山西 46 小壺 47 五色塚 48 舞子東石ヶ谷2号 49 大歳山2号 50 舞子
- 51 多聞 52 狩口台きつね塚 53 高塚山



こちらをご覧ください
 続々更新中です。

You Tube

金棒池 で検索！

検索



金棒池古墳の調査は、大学発アーバンイノベーション神戸 2023年度採択課題「神戸最後の前方後円墳」の高精度 3D デジタル・アーカイブの構築とその戦略的活用、同 2024 年度採択課題「“神戸最後の前方後円墳”の実態解明と持続的保全・活用方法の構築をめざした総合的研究」の助成を受けて実施しています。